

甲斐市立敷島中学校 学校関係者評価書

令和8年1月26日(月)

第3回 学校関係者評価委員・学校運営協議会委員合同会議

実施日:令和8年1月26日(月)15:30～

会場:図書室

参加者:(学校関係者評価委員会・学校運営協議会委員)

河西壽人(委員長) 小宮山齊 松岡栄子 保延浩子 依田那津希 田村和沙

増坪広夫 久保田勲 五味正年

(学校側) 校長戸田徳和 教頭 西山正志 教務主任 今野嘉昭

I 学校側から提案された内容

令和7年度自己評価、令和7年度生徒用アンケート集計結果表、令和7年度保護者アンケート集計結果表(本校の経年比較ができるもの)

II 協議された主な内容

自己評価及び生徒アンケートの集計結果、保護者アンケート集計結果をもとに学校の現状(成果と課題)や取り組み等について情報を共有・協議し、学校・家庭・地域の連携協力により学校運営の改善にあたる。

<学校関係者評価書>

I 全体評価

自己評価

39項目の質問によるアンケートを実施し、全教職員(41名)から回答を得た。R7年度のデータでは、合計15項目で100%の肯定評価を得た(昨年度は13項目)。特に【学校教育目標・学校経営】において5項目中4項目が、【生徒指導】において6項目中5項目が100%の評価を獲得した。一方【学習指導】においては、昨年度より5%以上の減少が2項目あり、今年度の課題となっている。

生徒アンケート

全校497名中490名から回答を得た。R6と比較して5%以上上昇した項目が5項目あった。また、肯定的評価が90%以上の項目が23項目中13項目あった。

保護者アンケート

27項目の質問によるアンケートで、435名の保護者から回答を得た。R6と比較して5%以上の上昇がみられた項目が3項目あり、17項目中12項目が上昇した。

II 特徴

自己評価より

【学校教育目標】「学校教育目標に基づいた教育活動」「学年の教育活動計画」「教育活動計画に基づいた教育実践」「PDCAサイクルを生かした教育活動」【学校運営】「個人情報保護・情報セキュリティ」「協働体制での教育活動」「報告・連絡・相談・確認」【学習指導】「心に響く道徳」【生徒指導】「民主的で規律ある集団づくり」「児童生徒理解のためのコミュニケーション」「基本意識を育む指導」「いじめ不登校の早期発見早期対応」「愛情と信頼に基づく生徒指導」【学校の特色】「学校行事や校外学習などの教育活動」【創甲斐教育】「体力向上」の項目で100%の評価を受けた。

一方、【学習指導】「個に配慮した授業」「協働的な授業」【地域との連携】「保護者地域からの情報収集」「教育活動の広報活動」「保護者地域と連携した生徒の安全確保」の項目では、昨年度より5%以上の減少となった。また、昨年度同様に「職場の福利厚生」「適材適所の校務分掌」の項目でも肯定的回答の割合が低く、来年度への課題となっている。

生徒アンケートより

「学校は楽しいか」「授業は楽しいか」「相談できる先生がいるか」などの項目で肯定的評価が昨年度より上昇し、「先生はよく勉強を教えてくれるか」「先生はあなたの良いところを認めてくれるか」も高い評価を得た。また、「挨拶」「相談できる友達がいるか」も肯定的評価が上昇している。

一方、「人前で意見を言えるか」はやや低いので、フリートークなどの取り組みを通して集団づくりにより一層力を入れていきたい。また「将来の夢や希望を持っているか」について低い数値であるので、今後キャリア教育の一層の推進を目指したい。

保護者アンケートより

「保護者・地域の声に耳を傾けている」「授業参観が有益」「適切な生徒指導」「授業への熱心な取り組み」などの項目は高評価を得た。特に「授業への熱心な取り組み」に関しては、昨年度より9%の上昇があり、校内研究などを通して授業改善を目指している成果が出ている。

一方、「授業内容の理解」「宿題の実施状況」「一人ひとりの学力向上への取り組み」「PTA活動への参加」はやや低く、今後の取り組みが求められる。保護者からの好意的な評価が多いことに感謝しつつ、課題となる部分については全教職員で改善に取り組みたいと考えている。

Ⅲ 今後の課題として意識されたいこと

- ・生徒アンケートの結果から外国語の授業の理解が下がっているが、何か原因が考えられるか。子どもたちの声として落ち込みが気になるが、アンケート以外に声としてあるのか。(河西、小宮山)
- ・校内研究の中で、個別最適な学び・協働的な学びの研究をしていて、外国語の授業を研究題材とした。なかなか成果が出ていないところは今後の課題として取り組んでいく。(教頭)
- ・生徒アンケートから「将来の夢や希望を持っている」の数値が低い、必ずしも高い数値が良いとは限らないのではないか。(小宮山)
- ・将来の夢や希望が持てないのそういう時期なのかかもしれない。具体的に社会のことや自分のことがわかってきて夢や希望が言えないのかかもしれない。(松岡)
- ・小学生はまだ現実をすべて見えていないから夢を語る部分がある。中学生は現実を見ていろいろ考えてから語る。数値が低いことが必ずしも悪いことではなく、いろいろ考えるようになった、予測できるようになったというとらえ方でいいのではないか。(増坪)
- ・小学校1年生はほぼ100%が夢を持っている。それが成長の過程でメタ認知ができてきて本当は夢を持っているがなかなか言えないのかかもしれない。小学校では、中学校になっても夢がいえるような児童を育てたい。(久保田)
- ・低学年の児童は、自分の本当に好きなことだけを考えて夢や希望を話す。高学年になると自分が見えてきたり他人と比較したりするようになる。やってみたいと思うことが、実現可能なのかを考えるようになるから数値が下がるのではないか。(五味)
- ・子どもたちが今を楽しむためにやっていることが夢につながらないのは現実が見えてくるからかもしれない。いろいろな職業に触れる機会を学校が作ってくれているが、それが子どもの実際の将来の姿として想像できない。大人が夢を持っているのか、それを大人が語っているのか、大人がワクワクしていないと子どもたちも夢を持つことができない。(田村)
- ・こうやって皆さんの意見を聞くことがこの学校評価が形だけのものにならず命を吹き込んで生きてくると感じた。(河西)
- ・地域の行事に子どもたちは参加している。参加していてもあまり意識していないのかかもしれない。アンケートに地域の行事はどんなものかなどの具体例があるとよいかもしれない。(松岡)
- ・地域との連携について、職員と生徒保護者の見方が違うのではないか。地域の方々には学校に協力したい気持ちがあり、地域の歩み寄りが必要ということをこの一年で痛感した。(依田)
- ・地域との交流は学校だけで完結はできない。教職員はまだまだ連携が足りないとの意見がある。部活動の地域展開においても地域の方の力が必要であると考えている職員もいる。(教頭)
- ・PTAの活動を通して地域の方に情報発信をしていくことが大事だ。直接顔を合わせて話をするのが大事である。(河西)
- ・スマホタブレットの使用時間が非常に多いのに驚いている。情報リテラシーが大事である。ICT活用の中で根拠のないものを見抜いていくことが重要だ。書籍は根拠のあるものが活字となっているので、情報の取捨選択、情報の安全性について見極めていく教育も大事である(河西)

Ⅳ 最後に来年度の学校経営方針(案)について承認をいただいた。

記載責任者

甲斐市立敷島中学校 学校関係者評価委員会委員長 河西 壽人

